

MAKING THE IMAGE INTELLIGENT



2027年3月期 第1四半期

決算補足説明資料

株式会社デジタルメディアプロフェッショナル

2026年8月12日

本資料に記載された意見や予測などは資料作成時点での当社の判断であり、その情報の正確性を保証するものではありません。様々な要因の変化により実際の業績や結果とは大きく異なる可能性があることをご承知おきください。

世界有数のグラフィックスIPベンダーとしての創業以来の経験・知見を活かし、近年は**アルゴリズム・ソフトウェアからハードウェア**、並びに**エッジからクラウド**に亘る一貫したAIサービスの提供により、お客様や社会の課題解決に貢献しています

会社名	株式会社デジタルメディアプロフェッショナル (DMP)
設立	2002年7月 (2011年6月東証マザーズ上場, 2022年4月東証グロース移行)
所在地	東京都中野区
代表者	代表取締役会長兼社長CEO 山本 達夫
資本金	1,838百万円
従業員数	50名 (2026年4月1日現在)
特許数	36件

IPコアライセンス事業

- AI/GPU IPコアライセンス
- AIソフトウェアライセンス



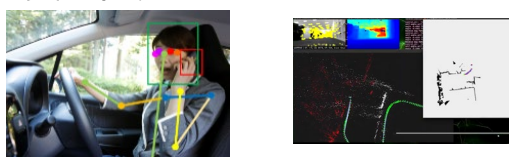
製品事業

- アミューズメント市場向け画像処理半導体
- エッジAI半導体
- 協働ロボット向けビジョンシステム
- FA製品 (AMR本体/コンポーネント)
- モジュール



プロフェッショナルサービス事業

- AIアルゴリズム、コンピュータビジョンソフトウェア受託開発
- FPGA/ボード受託開発
- ロボティクス・セーフティに係る顧客製品・サービス開発サポート



Making the Image Intelligent

画像を智能化する

画像インテリジェンスの力で現実世界の問題を解決し、ステークホルダーに価値をもたらす
革新的な製品とサービスを創造する

To develop cutting-edge products and services that leverage image intelligence
to address practical challenges and deliver value to our stakeholders.

Physical AI時代の「Edge Intelligence Platform Company」へと進化

成長分野への展開：エッジAI半導体事業

コア事業で培った強み、ノウハウを活かした、新たな分野での半導体ビジネスを展開
モビリティ、スマートファクトリー、ドローン、スマートカメラなどの高成長市場で採用拡大

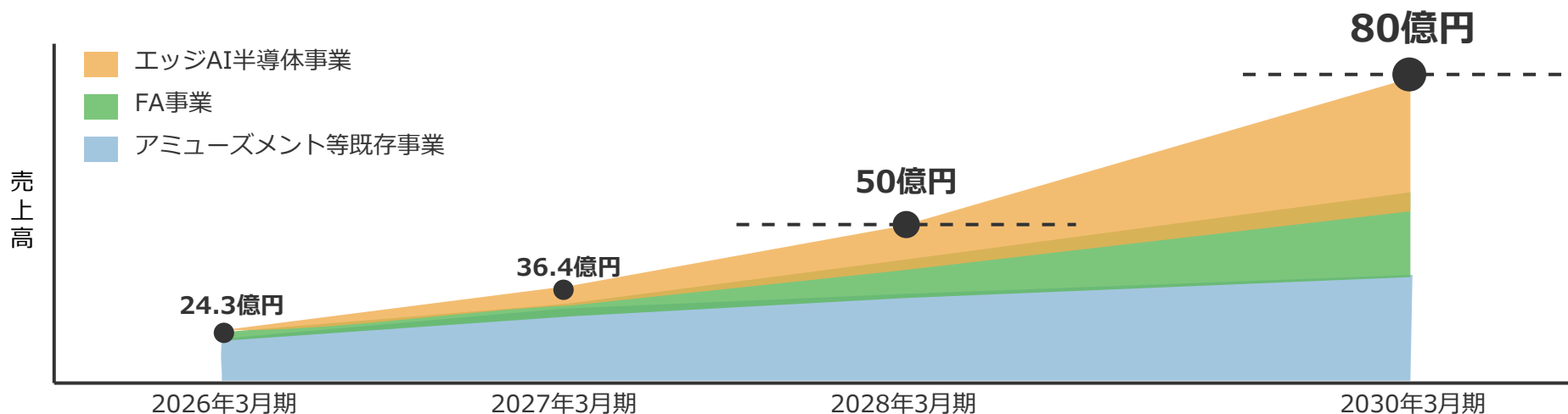
中長期的な
企業価値向上

新規事業機会の獲得：FA事業

当社の更なる成長実現のため、新事業領域に取り組む
Cambrian Vision Systemで築いた業界ネットワークを生かし、ロボティクス、ファクトリーオートメーション、物流自動化のさらなるスマート化により、日本の社会課題解決に貢献

コア事業の更なる成長：アミューズメント事業

周辺ビジネスの取り込みによる付加価値増大とコスト低減などによる利益の強化



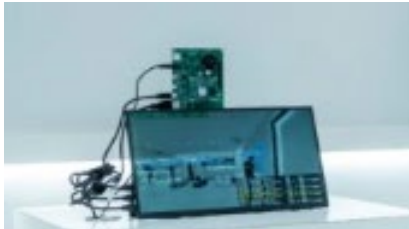
中期的な2つの成長エンジンの収益化基盤構築に向け、戦略的投資・リソース傾注

エッジAI半導体事業

- Di1の量産体制の構築を完了。各種アプリケーション市場において拡販活動を推進、開発キット等を出荷
- Sparsh CCTV(印)と次世代エッジAI CCTVカメラの開発に向け基本合意、ideaForge(印)と次世代AIドローン共同開発・同社製品の日本市場参入支援の戦略的覚書を締結(4月)
- Di1とブロックチェーン技術を組み合わせた映像の改ざん防止・真正性検証ソリューションをCOMPUTEX TAIPEI 2026でSTARBIT社(台湾)と共同展示
- 伝送データセキュリティ評議会(SDC)に参画。Di1を基盤にデータの真正性確保のソリューションを構築へ



Di1



FA事業

- 2025年4月開始の新規事業
- 自律搬送ロボット(AMR)メーカー向けにコントローラー、フリートコントロールシステム等のコンポーネント・産業用モーター・センサー製品を販売
- 「東京ロボティクス・イノベーションセンター ショールーム」を2026年7月に開設、AMR・AGF(自動誘導フォークリフト)・エッジAIカメラの実機のデモによるPhysical AI実装拠点として、稼働



ロボティクス・セーフティ分野

- Cambrianビジョンシステムは認識精度・ロバスト性の高さが評価され商談・納入が進捗。COMPUTEX TAIPEI 2026でも、高精度なケーブル認識・挿入デモンストレーションを展示
- Di1搭載エッジAIカメラによる自動ナンバープレート認識 (ANPR) ソリューションを展開開始。駐車場・高速道路等の入退管理・監視用途に対応
- 安全運転支援向けリカーリング収益等に加え、JR東海の新幹線ホーム安全性検証にDi1搭載AIカメラを提供 (7月30日)



- 売上高は425百万円（YoY +5.6%）、FA事業や受託開発サービスの拡大を背景に増収。損益面ではDi1開発の一巡等により損失縮小
- ロボティクス・セーフティ分野は前期立上げのFA事業で売上が順調に計上されたこと等により増収（YoY +113%）
- アミューズメント分野はRS1の量産出荷を継続。保通協等の検定試験適合率は改善の動きがみられ、新機種投入動向を注視

全社	事業別売上高	分野別売上高
売上高	IPコアライセンス	ロボティクス・セーフティ
425百万円 (YoY※ +5.6%)	22百万円 (YoY △17%)	56百万円 (YoY +113%)
経常利益	製品	アミューズメント
△116百万円 (前年同期 △240百万円)	379百万円 (YoY +2%)	349百万円 (YoY △1%)
	プロフェッショナルサービス	その他
	23百万円 (YoY 約15倍)	19百万円 (YoY △11%)

※ YoY (Year on Year) : 前年同期の連結ベース決算数値との比較

Di1開発の一巡や受託開発サービスの拡大等を背景に増収、損失縮小

(単位：百万円)	2026年3月期 第1四半期	2027年3月期 第1四半期	増減額
売上高	402	425	+22
営業利益	△241	△121	+120
経常利益	△240	△116	+123
四半期純利益	△240	△117	+123

- 受託開発サービスの拡大等により、売上高は425百万円（前年同期比+22百万円）に増加
- エッジAI半導体Di1の開発が一巡し、営業損失は121百万円に縮小
- 次世代製品の開発・人材獲得に向けた戦略的投資は継続

※ 2026年3月期第1四半期の数値は連結決算数値(「四半期純利益」は「親会社株主に帰属する四半期純利益」のこと)

●事業別売上高

IPコアライセンス事業 **22百万円** 前年同期 27百万円

- デジタル機器向けAI/GPU IPランニングロイヤリティ収入に加え、ロボティクス・セーフティ分野におけるリカーリング収益及びメンテナンスサポート収入を計上

製品事業 **379百万円** 前年同期 373百万円

- RS1の量産出荷を継続。Cambrianビジョンシステム、FA製品、Di1開発キット等の売上を計上
- 製品事業全体では前年同期比+2.1%の増収

プロフェッショナルサービス事業 **23百万円** 前年同期 1百万円

- 半導体製造装置向け、安全用途向けの受託開発サービスの提供等により前年同期を上回る売上を計上

●分野別売上高

ロボティクス・セーフティ分野 **56百万円** 前年同期 26百万円

売上構成比(前年同期比) 13.2% (+6.7%)

- 安全運転支援向け既存プロジェクトのリカーリング収益、Cambrianビジョンシステム・FA製品・Di1開発キット等の売上、受託開発サービス売上等を計上
- FA事業および受託開発サービスの拡大により大幅な増収

アミューズメント分野 **349百万円** 前年同期 354百万円

売上構成比(前年同期比) 82.2% (△5.8%)

- 主にRS1の量産出荷売上を計上

その他分野 **19百万円** 前年同期 22百万円

売上構成比(前年同期比) 4.6% (△0.9%)

- デジタル機器向けAI/GPUランニングロイヤリティ収入、メンテナンスサポート収入等を計上

自己資本比率は87.0%と高水準を維持
～戦略的投資を可能にする強固な財務体質～

(単位：百万円)		2026年 3月末	2026年 6月末	増減額	主な増減要因
	流動資産	2,790	2,491	△298	売掛金及び契約資産 △168 未収消費税等 △81
	固定資産	1,041	1,130	+89	有形固定資産（工具器具備品） +60
資産合計		3,831	3,621	△209	
	流動負債	537	445	△92	買掛金 △211 未払金 +114
	固定負債	27	27	+0	
負債合計		564	472	△92	
純資産合計		3,266	3,149	△117	利益剰余金 △117
負債・純資産合計		3,831	3,621	△209	

5月15日公表の通期業績予想に変更なし

～2027年3月期は収益・利益の改善と同時に、研究開発や人材の積極採用など戦略的投資を推進～

(単位：百万円)	2026年3月期 通期実績	2027年3月期	
		通期予想	増減
売上高	2,432	3,640	+1,207(+49.6%)
営業利益	△311	30	+341
経常利益	△293	45	+338
当期純利益	△327	30	+357

- アミューズメント事業でのRS1の量産拡大・周辺ビジネスの取り込みによる安定的収益の確保とともに、成長領域であるエッジAI半導体事業およびロボティクス・セーフティ事業の拡大の取り組みにより、売上高は大幅増収を見込む
- エッジAI半導体 Di1の量産案件獲得への注力、ロボティクス・セーフティ事業でのDi1を統合した高付加価値ソリューションの開発・提供など、研究開発・人材採用を中心とした戦略的投資を継続実行
- 中期的には、アミューズメント市場の更なる取り込みに加え、エッジAI半導体事業とFA事業の2つの成長エンジンにより、収益拡大、企業価値向上を目指す

<お問い合わせ先>

株式会社デジタルメディアプロフェッショナル 経営企画部

TEL:03-6454-0450

URL: <https://www.dmprof.com/jp/ir/>

- 本資料に含まれる将来の見通しに関する記述は、現時点における情報に基づき判断したものであり、マクロ環境や当社の関連する業界動向等により変動することがあります。従いまして、実際の業績等が、本資料に記載されている将来の見通しに関する記述と異なるリスクや不確実性がありますことをご了承ください。
- 本資料は、弊社をご理解いただくための情報提供を目的としたものであり、弊社が発行する有価証券への投資を勧誘するものではありません。本資料に全面的に依拠した投資等の判断は差し控え願います。